

平成 18 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏 名 角 谷 常 子

最終学歴	1990年 3 月京都大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得満期退学
取得学位	文学博士
所属学会	東洋史研究会、東方学会、日本秦漢史学会、木簡学会、史学研究会
現在の専門分野	中国古代史
研究課題	中国古代における意思表示手段とその社会的背景、 中国古代における親族関係とその社会的・政治的背景

【研究上の特記事項】

2006年度奈良大学研究助成「中国古代文字資料の基礎的研究」研究代表者

【社会的活動】

日本秦漢史学会理事（2005年度～）  
木簡学会役員（2005年度～）  
歴史講座（日本セカンドライフ協会）講演 2 回（大阪市）  
豊中歴史同好会 講演 1 回（豊中市）  
歴史を楽しもう会 講演 1 回（堺市）

【学内活動】（学内職歴を含む）

全学教務委員、国際交流委員

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1江陵張家山二四七号墓出土漢律令の研究	共	2006年6月	朋友書店	漢律令の訳注。論文として、家族、特に妻が実家の罪にも連坐したのかどうかを明確にした「秦漢時代における家族の連坐について」を発表した。
2シルクロードを拓く	共	2007年1月	シルクロード学 研究センター	武帝の対匈奴積極策が、決して武帝個人の資質にのみ帰せられるものでないことを「トラウマからの永光」として述べた。
3漢簡『算数書』中国最古の数学書	中 共	2006年10月	朋友書店	張家山出土の「算数書」の訳注。内容ではなく、出土状況に即して簡の配列を考えるべきであるとの考えを「算題の配列について」として述べた。